

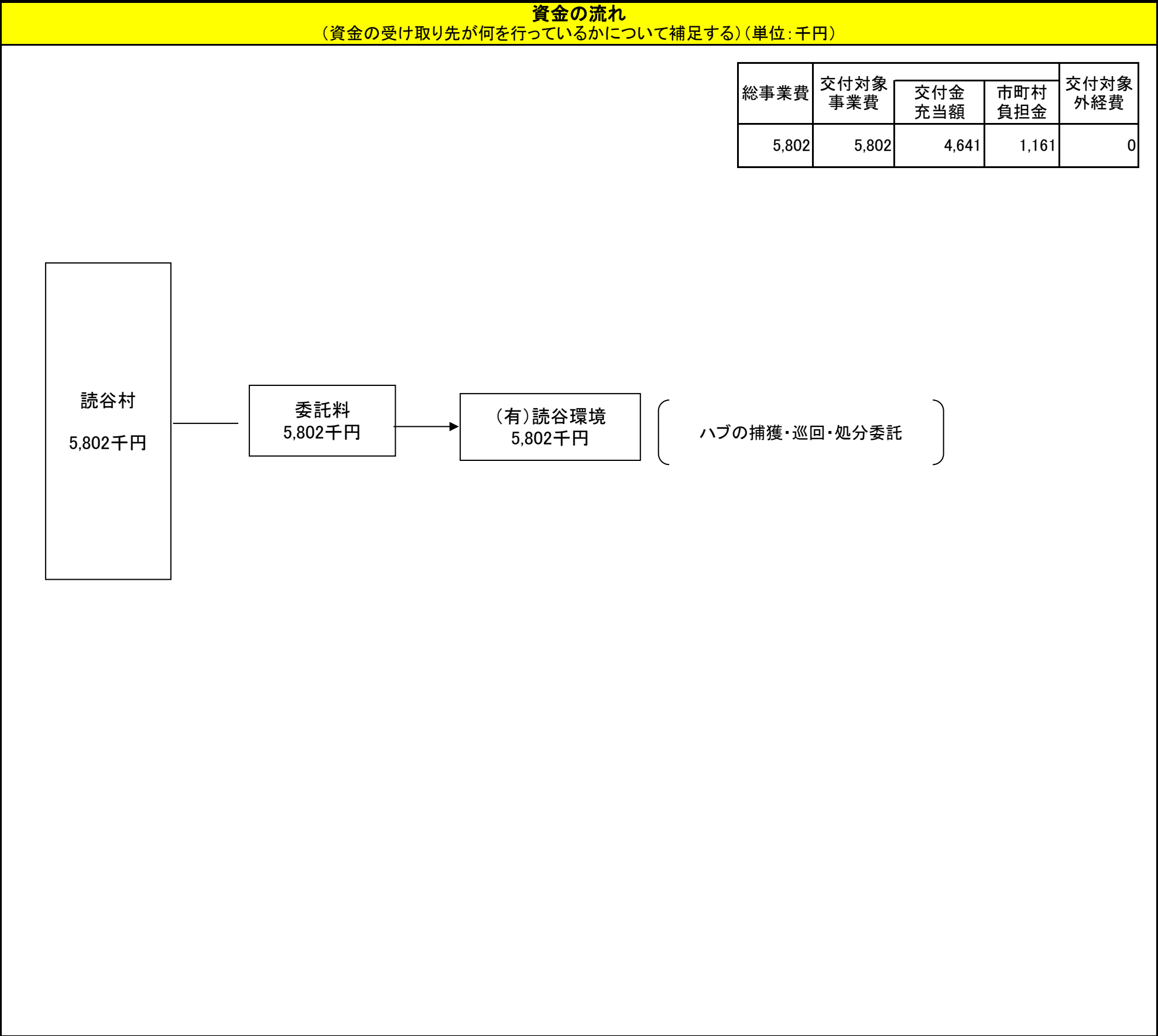
市町村名	読谷村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	読谷観光・物産アピールとスポーツコンベンション誘致促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ				
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開			
事業内容	読谷村観光・物産アピールとスポーツコンベンション誘致促進事業スポーツコンベンションの誘致、特に冬季におけるスポーツキャンプ等のスポーツコンベンションの誘致と、それを起爆剤とした観光誘客を目的に実施する事業である。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	21,648	21,760	18,700	25,868	23,958	
		(b) 予算現額	21,648	16,560	17,730	23,770	20,882	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 5,200	▲ 970	▲ 2,098	▲ 3,076	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	21,648	16,560	17,730	23,770	20,882	
	B. 執行済額		15,083	14,821	16,210	23,770	20,612	
	うち交付金充当額		12,066	11,856	12,968	18,427	16,489	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		69.7%	89.5%	91.4%	100.0%	98.7%	
予算の状況の説明		概ね事業計画どおり予算を執行した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	各種スポーツキャンプ・大会誘致活動(4回)	目 標	(4回)	()	()	()		
		実 績	2回					
	観光誘客イベントの開催(3回)	目 標	(3回)	()	()	()		
		実 績	4回					
	キャンプ期間中の集客イベントの開催(2日)	目 標	(2日)	()	()	()		
		実 績	2日					
	達成状況説明	本事業では事業開始から5年を終えH29年度から新たな目標を設置して事業を行った。 各種スポーツキャンプ・大会誘致活動は4回を目標としていたが、他事業との連携で本事業の予算を活用することなく大会の誘致を行うことができたこともあり、本事業では目標を下回ることとなった。その費用の範囲内で観光誘客活動を1度増やし、目標値3回に対して4回行った。キャンプ・大会誘致活動、観光誘客活動を行ったことで、読谷村の周知を図ることができ、キャンプ中の集客イベントにはスポーツチームファン層などの多くの観光客が本村を訪れた。						
	成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度
スポーツコンベンション誘致(20団体 延6,000人以上)		目 標	()	(20団体)	()	()	()	
		実 績		21団体				
観光誘客イベント来場者数(60,000人以上)		目 標	()	(60, 000人)	()	()	()	
		実 績		67, 881人				
キャンプ期間中の来場者数(4,000人以上)		目 標	()	(4, 000人)	()	()	()	
		実 績		11, 000人				
進捗状況説明		スポーツキャンプ・大会誘致の誘致活動を行った。また、観光誘客イベントを行い本村のPR活動を行ったり、チームと連携を図り選手や監督なども協力してくれたので、キャンプ期間中の本村への集客に繋がった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	2019ラグビーワールドカップ、2020東京オリンピックに向けますますスポーツコンベンションの受入が過密になっていくことが予測されるので、グラウンドのコンディション維持の対策を行う必要がある。 観光誘客イベントの実施などにより、冬季～春季のスポーツキャンプ時に本村を訪れるスポーツチームファン層の観光客は、年々増加している。スポーツの盛り上がりが期待される2019,2020年はさらに観光誘客に力をいれ、『キャンプ地読谷村』というイメージを確立していく必要がある。	これまで同様の誘致を行いながらも今後はグラウンドを使用しない競技や、キャンプ時期の違う競技などの誘致を行うことも検討する。また『キャンプ地読谷村』というイメージを定着させるためスポーツチームと連携する。
今後の取り組み方針		
現在本村でキャンプを行っているチームの本拠地に出向き、ファン層へのPRイベントを行いながら、新たな競技の誘致等も行う。またスポーツチームと連携し、SNS、HPなどでの情報発信の強化を行い広くPRしながら、ファン層へのアンケートなどを実施してキャンプ地としてのイメージの定着を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>20,612</td><td>20,612</td><td>16,489</td><td>4,123</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	20,612	20,612	16,489	4,123	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
20,612	20,612	16,489	4,123	0										
読谷村 (20,612千円) 旅費 (941千円) 読谷観光・特産品PR 委託料 (19,671千円) (一社)読谷村観光協会 県外旅費 スポーツコンベンション誘致促進委託														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、実績などを勘案した上で選定しているため妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業の合同実施などにより不用が生じたものの、事業目標を概ね達成しているため、適正な規模であったと考えられる。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において支出などに関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－②	危険生物駆除事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ				
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	総務部 生活環境課	事業実施 （予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）			
事業内容	危険生物として駆除の対象となっているハブの咬症被害が、本村においても毎年のように発生し、村民はもとより観光客が被害にあう事例も発生している。また、これまで近隣市町村でのみ捕獲された攻撃性の強いタイワンハブの捕獲事例が本村でも発生しており、その蔓延を防ぐためにも早期の駆除活動の強化が必要である。来村する観光客や行楽客、そして村民をハブ咬症から守るため、捕獲器を設置し継続的なハブの捕獲、駆除により個体数を減らすことで、より安全な観光地を目指す。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	15,358	10,576	7,349	8,090	7,605	
		(b) 予算現額	15,358	4,975	7,349	6,180	5,802	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 5,601	0	▲ 1,910	▲ 1,803	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	15,358	4,975	7,349	6,180	5,802	
	B. 執行済額		6,418	4,939	5,894	6,179	5,802	
	うち交付金充当額		5,133	3,951	4,715	4,943	4,641	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		41.8%	99.3%	80.2%	99.98%	100.00%	
	予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。 指名競争入札による入札残分を減額した。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	村内に捕獲器を400器設置	目 標	(設置)	(設置)	(設置)	(設置)		
		実 績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了		
	定期巡回・管理の実施	目 標	()	(25回)	(25回)	(24回)		
		実 績		26.8回	25.8回	29.1回		
	設置看板100枚の管理	目 標	()	()	(100枚)	(100枚)		
		実 績			100枚	100枚		
	達成 状況 説明	・H29.4月中旬に委託業務を発注し、ハブ捕獲器400器を設置した。 ・捕獲する為のエサとなるマウスを飼育し、設置期間における2週間を目処に巡回・罠の管理を行った。 ・設置した危険周知看板の維持管理を行い、観光客及び村民への啓発に繋げた。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度)	27年度	28年度	29年度
村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:0件		目 標	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
		実 績	3	1	1	1		
【参考指標】 捕獲数:100匹／年		目 標	(ー)	(100匹)	(100匹)	(100匹)	()	
		実 績	3匹	155匹	133匹	170匹		
進 捗 状 況 説 明		・平成28年度と比較し、捕獲数が増加した。 ・継続的に捕獲することで、咬症被害増加の抑制につながったと考えられるが、結果としては、今年度も咬症被害:1件発生。 観光客や村民への周知の手法に改善の余地があると考えられる。特定ハブの生息域が拡大している可能性も考えられる。 今後も、咬症被害の増加を抑制し、将来的な0件達成に繋げる。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・注意喚起の【ハブに注意】看板の維持管理を徹底する必要がある。 ・海岸線を中心に観光地に広く設置しているが、年度毎、エリア毎の捕獲数に開きがある。	・年度当初からの早期着手を図る為、申請事務処理を確実に行う。 ・ハブの活動が活発となる4～5月に向け、委託業務を発注し、ハブ等の駆除作業に取り組み観光客等への危険性の除去を図る。 ・事業の概要等を村HPや防災・行政無線、ラジオ放送を活用し、周知を図る。 ・エリア毎の捕獲数の多少について検証し、捕獲器の配置数を工夫する。
今後の取り組み方針		
・年度当初に着手し、ハブ等の活動が活発になる前に捕獲器を設置し、危険性の除去向上に努める。 ・捕獲器及び危険周知看板の維持管理を行う。実施後、エリア毎の捕獲数を踏まえ、設置箇所について検証し再配置の検討を行う。 ・村広報、村HP、防災・行政無線及びラジオ放送を活用し、住民、観光客等に対し、危険生物であるハブへの注意喚起を図り、捕獲器設置への理解と協力を促し、危険事業である内容の更なる周知に努める。		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式により決定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○県内実績を勘案し選定しており、妥当であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模として不用額は、すべて入札残であり、適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

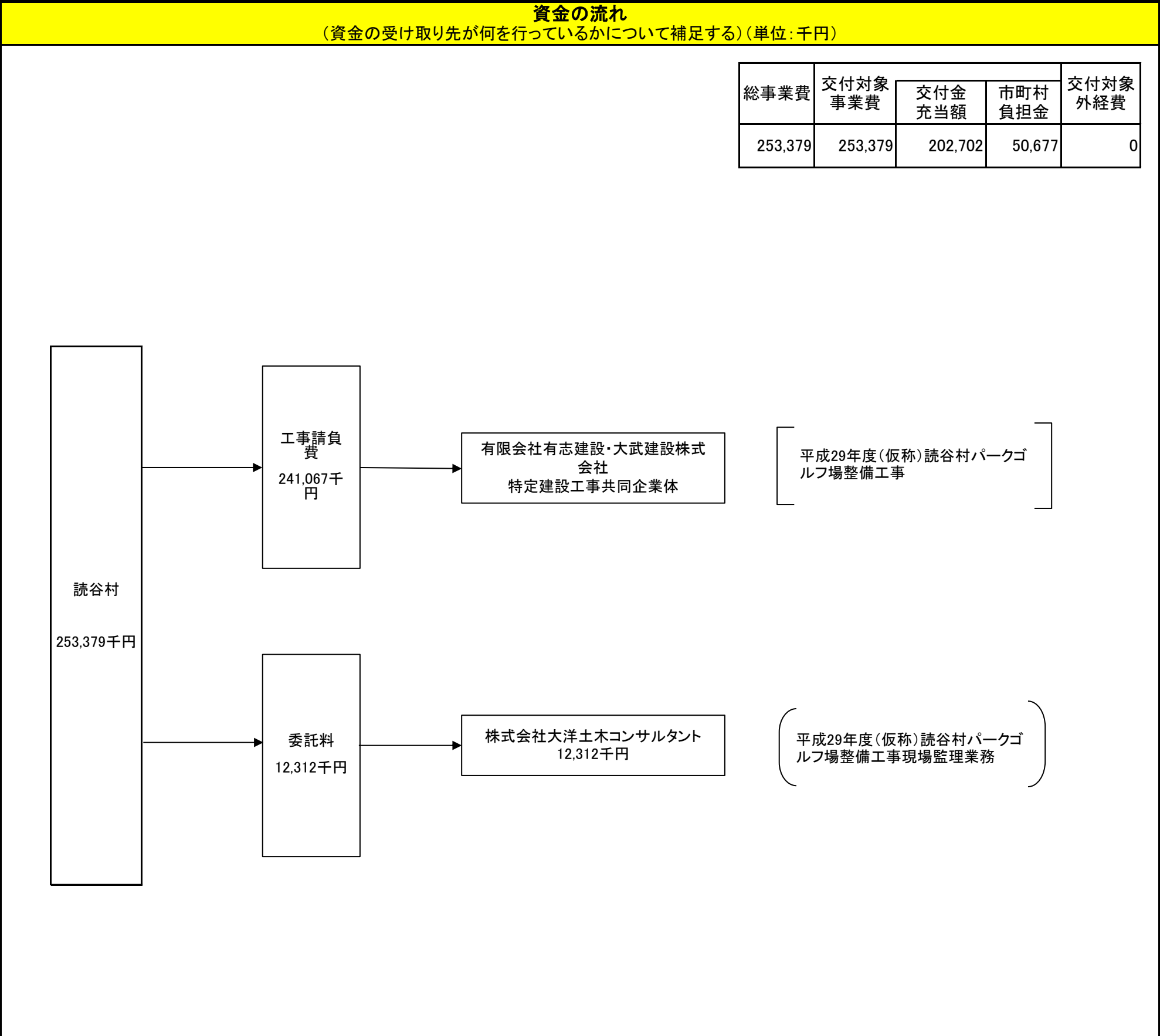
市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③	ヨミタンJOHO発信事業(ヨミタン観光情報等PRラジオ番組制作・放送事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開		
事業内容	主にレンタカーを利用する観光客を、国道58号より西側の本村内に誘導することを目的に、観光情報番組を毎日午前中の異動想定時間帯に製作・放送する。また、レンタカー利用者に配布されるドライブMAPに番組の情報を掲載し、聴取機会の向上を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,885	6,636	6,876	7,506	7,218	
		(b) 予算現額	3,885	6,636	6,876	7,506	7,218	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	3,885	6,636	6,876	7,506	7,218	
	B. 執行済額		3,885	6,199	6,574	7,216	7,218	
	うち交付金充当額		3,108	4,959	5,258	5,772	5,774	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	93.4%	95.6%	96.1%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度	
	コミュニティFM放送を活用した観光情報の提供	目 標	(実施)	(実施)	()	()		
		実 績	実施	実施				
	レンタカードライブMAPへの記事掲載	目 標	(実施)	(実施)	()	()		
		実 績	実施	実施				
達成状況説明	事業期間中(平成29年4月10日～平成30年3月10日)は毎日放送を行った。 平成27年度までの活動目標は「観光情報の提供チラシ作成」だったが、委託先事業者がレンタカー協会へ加盟したことにより、同協会が発行する「レンタカードライブMAP」への記事掲載とした。平成28年度同様、多数のレンタカー利用者に対して情報の提供ができた。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	聴取者からのメール受信件数 1,520件/年 ※平成27年度受信件数×伸び率1.06	目 標	()	(432件)	(650件)	(1,520件)	()	
		実 績		1,442件	1,395件	1,007件		
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	事業期間中(平成29年4月10日～平成30年3月10日)は毎日放送を行い、多くのレンタカー利用者へ読谷村の情報発信に努めたが、目標達成には至らなかった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（聴取者からのメール受信件数） 目標に届かなかった原因を今後検証し、番組内容や情報発信の手法を精査することが今後の課題。	（聴取者からのメール受信件数） メール件数と放送内容の相関関係を検証し、より関心のある番組構成に努め、メール受信件数の増加に繋げる。
今後の取り組み方針		
（聴取者からのメール受信件数） 引き続き、事業期間中は毎日放送し、メール件数の増加に繋げるため、委託事業先との連携を密にとり情報交換を行っていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,218</td><td>7,218</td><td>5,772</td><td>1,446</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 7,218千円 → 委託料 7,218千円 → FMよみたん 7,218千円 （番組制作・放送及びチラシ制作・配布にかかる委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,218	7,218	5,772	1,446	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,218	7,218	5,772	1,446	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内コミュニティ放送局3社からの見積徴収により、読谷村でコミュニティFMを運営するFMよみたんを支出先に選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は見積及び前年度の実績等を考慮し設定しており、適正であったと考える。 ○費目、使途については事業目的に応じて、適正なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-④	(仮称)読谷村パークゴルフ場整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(7)			
担当部課名	建設整備部 都市計画課	事業実施 (予定)年度	平成27～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	平成24年度に策定された第2次読谷補助飛行場跡地村民センター地区跡地利用計画にて示された(仮称)読谷村パークゴルフ場を整備し、全国からパークゴルフ愛好者を誘客することにより、観光振興を図ると同時に、地域住民の体力増進、高齢者の生きがいの場づくり、駐留軍用地跡地利用に資するため、造成工事及び現場管理業務を行った。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,546	27,598	297,890			
		(b) 予算現額	4,546	18,644	277,472			
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 8,954	▲ 20,418			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計 (b+d)	4,546	18,644	277,472			
	B. 執行済額		4,212	18,644	253,379			
	うち交付金充当額		3,369	14,915	202,703			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率（％）(B/A)		92.7%	100.0%	91.3%			
	予算の状況の説明		当初予算は概算金額で計画を行ったが、実施設計後の予算額との減額(▲20,148千円)が生じた。また、発注においての入れ残や工事実施中における設計変更があり24,093千円の不用額が生じた。 事業については計画どおりに執行することができた。					
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度		
(仮称)読谷村パークゴルフ場の土木工事の実施		目 標	(土木工事の実施)	()	()	()	()	
		実 績	土木工事の実施					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成状況説明		平成28年の実施設計を基に(仮称)読谷村パークゴルフ場の造成工事を実施し、H30年度の建築工事に向け取り組むことができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	29年度	30年度	31年度
	(仮称)読谷村パークゴルフ場整備工事の29年度分に係る工事の完了	目 標	()	(造成工事完了)	()	()	()	()
		実 績		造成工事完了				
		目 標	()	()	()	()	()	()
		実 績						
	進捗状況説明	(仮称)読谷村パークゴルフ場の造成工事を実施したことで、H31年度の供用開始に向け計画どおりに達成できた。 今後、建築工事を実施し、駐留軍用地跡地利用を進める。						

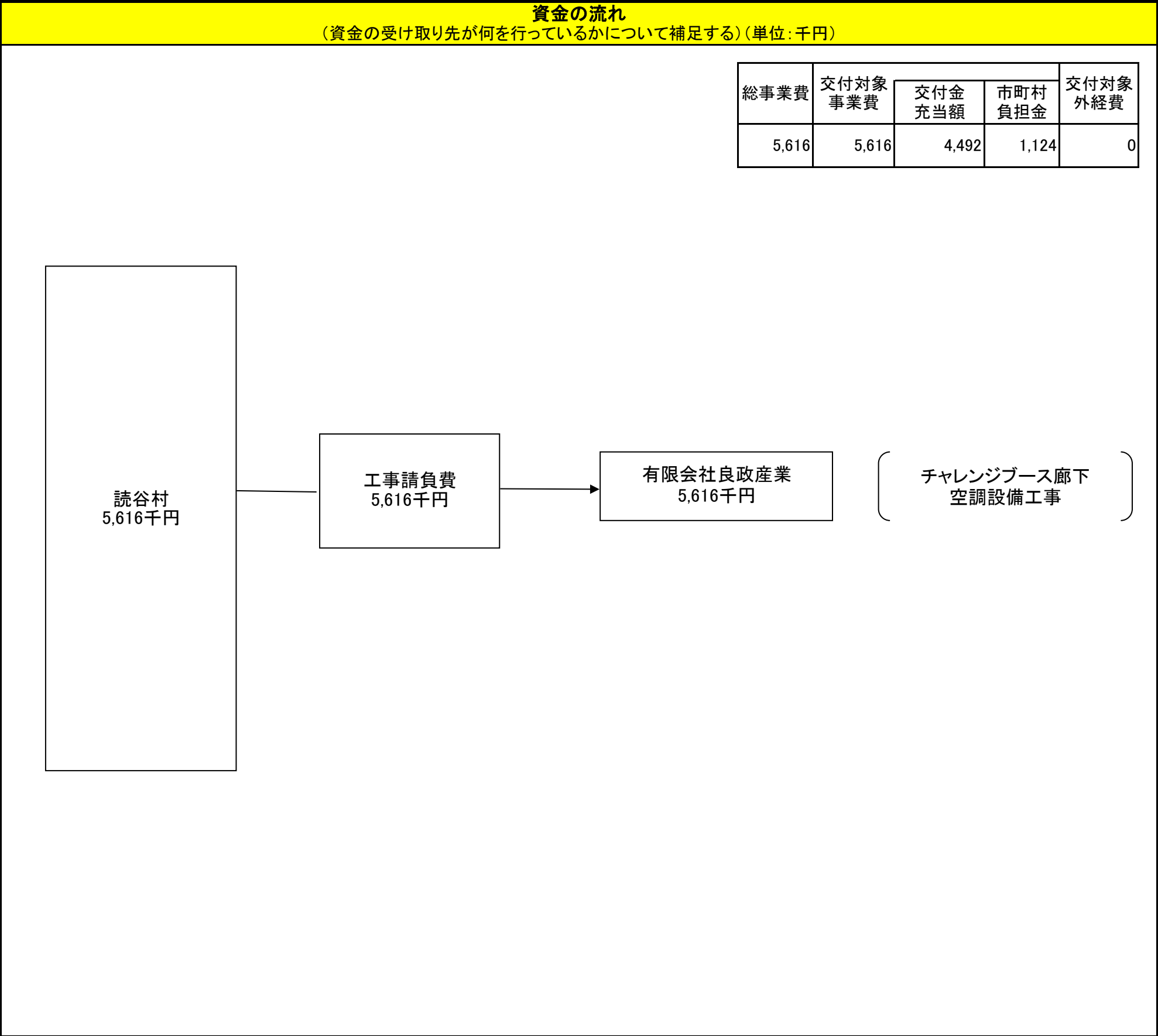
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今年度の取組みでパークゴルフ場の造成工事を完成することができた。 造成工事ができたことで、村民等から供用の期待が寄せられており、供用開始を予定通り迎えるため、H30年度事業についても円滑な執行に努める必要がある。	パークゴルフ場の供用（オープン）までは、管理棟などの整備がまだ残っているため、早期の工事発注に取り組む。
今後の取り組み方針		
H31年4月の供用開始に向け、工事の工程管理や備品導入の時期等を計画的に進めていく。		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者及び委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△当初予算計上時に概算金額であったため、執行額との乖離が生じた。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1－⑤	読谷村地域振興センター機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア			
担当部課名	ゆたさむら推進部 企画政策課	事業実施（予定）年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
事業内容	読谷村の観光振興を担う施設である、読谷村地域振興センターの機能を強化し、更なる観光振興を図る。H29年度はチャレンジブース廊下における空調設備の設置を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,899	5,904			
		(b) 予算現額	8,899	5,904			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	－	－			
		A. 計 (b+d)	8,899	5,904			
	B. 執行済額		8,410	5,616			
	うち交付金充当額		6,728	4,492			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		94.5%	95.1%			
	予算の状況の説明		計画的な予算執行に務め、業務を遂行した。				
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
	チャレンジブース廊下空調設置		29年度	30年度	31年度	32年度	
		目 標	（ 設置工事の実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	設備工事の実施				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
	実 績						
	達成状況説明	チャレンジブース廊下へ空調設備の設置工事を行った。					
	成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度
チャレンジブース廊下空調設置完了		目 標	（ ）	（ 設置完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		設置完了			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
進捗状況説明		チャレンジブース廊下へ空調設備の設置工事を行い、設置が完了した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	年間利用者数168,000人を目標としているが、チャレンジブースの廊下部分については、施設利用者の休憩所となっているが、空調設備が無く、利用者より夏場の利用ができないと意見があった。そのため、本事業で利用者が利用しやすい環境づくりを進めるため、設備等の設置が急務であった。夏場でも快適に利用できるよう機能が強化されたことを広くPRし、利用者数を増やす取組が必要となる。	本事業で整備した設備等を、より多くの方へ利用してもらえよう、HPやSNS等により施設利用の案内を広くPRする。施設利用者の声を聞き、より利用しやすい環境づくりを心掛け、魅力向上へ繋げていくことが重要である。
今後の取り組み方針		
各入居施設及び会議室等の貸出施設、イベント時の利用者数の調査を行うとともに、平成28年度から29年度までに本事業で整備した設備等の活用をさらに推進するため、各種媒体を利用し、広くPRできるように努める。		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算額は、見積書等で必要最小限に抑えたので、適正と考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、現場確認及び書類で検査を実施しており、必要なものであったと判断している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	読谷に一びち観光客誘致プロジェクト事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ				
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施（予定）年度	平成29～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開			
事業内容	リゾートウェディングを目的とした観光客に対して、国内外でのプロモーション、村内での受入体制強化をはかり、さらなる観光客の増加を促進する。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,355					
		(b) 予算現額	8,099					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,256					
		(d) 繰越額	-					
		A. 計 (b+d)	8,099					
	B. 執行済額		8,096					
	うち交付金充当額		6,477					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		99.96%					
	予算の状況の説明		旅費（航空運賃）が当初想定より抑えられたため、2,256千円の減額となった。 事業については概ね計画どおりに執行した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	国内・国外でのプロモーション活動（2回）	目 標	（ 2回 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	3回					
	日本語・多言語パンフレットの作成（10万部）	目 標	（ 10万部 ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績	10万部					
達成状況説明	・国内外でのプロモーションについては当初2回の予定だったが、香港、台湾へそれぞれプロモーションの機会があったため、国内と合わせ3回の実績となった。 ・パンフレットについては、予定どおり10万部作成した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 27年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（ 年度）
	リゾートウェディング数（2, 460組）	目 標	（ 2,433組 ）	（ 2,460組 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		2,567組				
	日本語・多言語パンフレット配布（10万部）	目 標	（ ）	（ 10万部 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		10万部				
	進捗状況説明	・リゾートウェディング数については、沖縄県が行った調査資料による。 ・パンフレットについては、国内外のプロモーションにより予定どおり10万部配布した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（リゾートウェディング数） ビーチなど自然の中で撮影するフォトウェディングの人気の高まってきていることなどが目標達成の要因と考えられる。 （日本語・多言語パンフレット配布） 国内外の旅行会社等と連携することにより目標を達成した。	（リゾートウェディング数） リゾートウェディング実施組数の更なる向上にむけ、引き続き国内外でのプロモーション活動を進めていく。 （日本語・多言語パンフレット配布） 観光協会や飲食店など配布先を充実させることにより村内での受入体制を強化していく。
今後の取り組み方針		
（リゾートウェディング数） リゾートウェディング実施組数の更なる向上にむけ、引き続き国内外でのプロモーション活動を進めていく。 （日本語・多言語パンフレット配布） 引き続き村内外にて配布先を増やすことにより、情報発信、受入体制の強化を進めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>8,096</td><td>8,096</td><td>6,477</td><td>1,619</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 8,096千円 旅費 569千円 有限会社沖縄スカイ観光サービス 422千円 旅ラボ沖縄 147千円 国内・国外プロモーション 委託料 5,821千円 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 5,821千円 多言語パンフレット作成 需要費 1,706千円 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 1,706千円 パンフレット印刷費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,096	8,096	6,477	1,619	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,096	8,096	6,477	1,619	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託業者は実績、提案内容などを勘案した上でプロポーザル（随意契約）にて選定しているため妥当であったと考える。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については事業目標を概ね達成しており適正であったと考える。										
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目、使途については額の確定時において検査を実施しており、適正なものであったと判断した。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	公衆無線LAN設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ		
担当部課名	ゆたさむら推進部企画政策課	事業実施（予定）年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	村内観光地周辺に無料公衆無線LAN環境を構築し、観光客が情報を受信および発信しやすい環境を整えることで、観光振興に寄与する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,420	11,322			
		(b) 予算現額	13,954	11,322			
		(c) 増減額 (b-a)	1,534	0			
		(d) 繰越額	－	－			
		A. 計 (b+d)	13,954	11,322			
	B. 執行済額		6,351	8,412			
	うち交付金充当額		5,080	6,728			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		45.5%	74.3%			
予算の状況の説明		不用額2,910千円については委託料の入札残である。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	無線LANアクセスポイントの設置の実施（3箇所）	目 標	（ 2箇所 ）	（ 3箇所 ）			
		実 績	2箇所	3箇所			
		目 標					
		実 績					
達成状況説明	当初予定していた3箇所に公衆無線LANアクセスポイントを設置し、観光地にてWi-Fiが利用できるよう整備を行った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
	無線LANアクセスポイントの設置完了（3箇所）	目 標		無線LANアクセスポイント2箇所設置完了	無線LANアクセスポイントの設置完了（3箇所）		
		実 績		無線LANアクセスポイント2箇所設置完了	無線LANアクセスポイントの設置完了（3箇所）		
		目 標					
		実 績					
	進捗状況説明	無線LANアクセスポイントの設置を完了したことで、目標を達成した。 各観光施設において、観光客がWi-fiに接続できる環境が整備された。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成28年度はプロスポーツキャンプ等が行われる残波岬ボールパーク周辺と平和の森球場及び陸上競技場エリアの整備を行った。平成29年度は観光客が多く訪れるやちむんの里、都屋漁港、泊城公園の整備を行い、多くの観光客が公衆無線LANを利用できる環境を整備した。しかし、本村にはまだ座喜味城跡や現在整備中のパークゴルフ場など、観光客の訪れる施設があり、それらの施設のWi-fi整備が求められる。	Wi-fi利用エリアの検証や、ニーズ把握を行い、整備計画を立て、観光地におけるWi-fi整備を推進していく。
今後の取り組み方針		
村内観光地への無線LANアクセスポイント設置箇所を増やし、村内どの観光地を訪れても情報の発信や受信ができるよう整備し、本村の観光振興を図る。また、観光客へのWi-fi利用の周知を行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
8,412	8,412	6,728	1,684	0

読谷村
8,412千円

→

委託料
8,412千円

→

株式会社国際システム

(公衆無線LAN整備委託)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており妥当であったと考えている。 ○予算執行率は74.3%だが、入札残によるもので計画していた事業執行が行えたため適正であったと考える。 ○費用・使途については、精査・検査を実施しており目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	小中学校情報教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育委員会 教育総務課・学校指導課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進			
事業内容	島しょ県であるハンディを克服し、国際性豊かな人材育成と情報教育を活用した学力向上への環境を整えるため、読谷村内小中学校に情報教育支援員を配置する。 平成25年度及び28年度で導入した電子黒板等ICT機器を活用しての授業を展開するために、教員・生徒への支援を行う。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,200	6,475	6,224	7,100	6,522	
		(b) 予算現額	4,200	6,475	6,224	7,100	6,522	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	4,200	6,475	6,224	7,100	6,522	
	B. 執行済額		4,159	5,939	6,224	6,508	6,466	
	うち交付金充当額		3,327	4,751	4,979	5,206	5,172	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		99.0%	91.7%	100.0%	91.7%	99.1%	
予算の状況の説明		当初の計画通り予算を適正に執行できた。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	情報教育支援員配置 小学校{5校}：2名 中学校{2校}：1名	目 標	(小学校2名 中学校1名)	(小学校2名 中学校1名)	(小学校2名 中学校1名)	(小学校2名 中学校1名)		
		実 績	小学校2名 中学校1名	小学校2名 中学校1名	小学校2名 中学校1名	小学校2名 中学校1名		
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	村内5小学校において2名、村内2中学校において1名の情報教育支援員を配置した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（年度）
	情報機器を活用する教員のサポート体制の強化・構築の完了	目 標	()	(完了)	()	()	()	
		実 績		完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	平成28年度までの運用では教員の求めに応じて授業への支援を行っていたが、更なる支援体制を構築するため、各学校で情報教育支援員活用時間割を基本とした支援体制を整え、すべての学級で支援ができるようにした。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	情報教育支援員の活用による支援体制の構築に努めてきた結果、教員のICT教育機器活用スキルが向上し、校内の教員同士の研修でICT教育機器が活用できるまでになった。したがって、情報教育支援員の継続配置について検討が必要となった。	情報教育支援員の継続配置の是非について検討した結果、継続配置は必要なしと判断した。
今後の取り組み方針		
当該事業の当初の目的を達成できたことから、事業を完了とする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
7,052	6,466	5,172	1,294	586

読谷村
6,466千円

報酬
6,383千円

情報教育支援員
6,383千円

〔 嘱託職員報酬 〕

旅費
83千円

情報教育支援員
83千円

〔 嘱託職員費用弁償 〕

読谷村負担分586千円
(対象外経費)

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	日本語教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア			
					教育機会の拡充			
担当部課名	教育委員会 教育総務課・学校指導課	事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)			
事業内容	二重国籍や帰国児童等、日本語を習得していない児童に対し、小学校の授業時に通訳や内容説明、他児童との交流の仲介等を行い、小学校生活に順応できるように支援を行う。また、児童の保護者に対しても学校との連絡調整の場（家庭訪問・三者面談・各通知の英訳）で支援を行う。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,219	4,314	4,065	4,561	3,992	
		(b) 予算現額	2,999	4,314	4,065	3,961	3,963	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,220	0	0	▲ 600	▲ 29	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	2,999	4,314	4,065	3,961	3,963	
	B. 執行済額		2,898	3,768	3,760	3,498	3,963	
	うち交付金充当額		2,318	3,014	3,008	2,798	3,170	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		96.6%	87.3%	92.5%	88.3%	100.0%	
	予算の状況の説明		当初予定と異なる人員配置となったため、予算減額。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	日本語教育支援員配置 小学校{5校}：3名	目 標	(2名)	(3名)	(3名)	(3名)		
		実 績	3名	3名	3名	3名		
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成 状況 説明	村内小学校5校中3校に各1名、日本語教育支援員を配置し、対象児童に対し、小学校生活に順応できるよう支援を行った。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （ 年度）
	要支援児童へ柔軟な支援体制の構築	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実 績		実施	実施	実施		
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進 捗 状 況 説明	年間を通した支援員の配置により、要支援児童に寄り添った支援体制を構築・維持することができたことで、柔軟なサポートが実現し、目標を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童の生活支援や学習支援、その保護者対応など、限られた勤務時間のなかでの支援について、日々、流動的であることから充分に対応できていない現状がある。	柔軟な勤務体制の構築を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
小学校との協議のうえ、より柔軟な支援体制の実現を目指し、今後も継続的に支援員を配置し、対象児童の学校生活や学習上の困難の改善を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,325</td><td>3,963</td><td>3,170</td><td>793</td><td>362</td></tr></table> 読谷村 3,963千円 報酬 3,908千円 日本語教育支援員 3名 3,908千円 〔 嘱託職員報酬 〕 旅費 55千円 日本語教育支援員 3名 55千円 〔 嘱託職員費用弁償 〕 読谷村負担分362千円 (対象外経費)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,325	3,963	3,170	793	362
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,325	3,963	3,170	793	362										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	小中学校学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育委員会 教育総務課・学校指導課	事業実施（予定）年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	小中学校において学習に遅れが生じている児童・生徒を対象に、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,482	14,686	16,143	14,811	
		(b) 予算現額	15,482	14,686	16,043	14,755	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 100	▲ 56	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	15,482	14,686	16,043	14,755	
	B. 執行済額		14,074	14,089	14,220	14,755	
	うち交付金充当額		11,237	11,271	11,376	11,804	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		90.9%	95.9%	88.6%	100.0%	
	予算の状況の説明		当初予定と異なる人員配置となったため、予算減額。				
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	学習支援員配置 小学校（5校）： 5名	目 標	（ 5名 ）	（ 5名 ）	（ 5名 ）	（ 5名 ）	
		実 績	5名	5名	5名	5名	
	学習支援員配置 中学校（2校）： 2名	目 標	（ 2名 ）	（ 2名 ）	（ 2名 ）	（ 2名 ）	
		実 績	2名	2名	2名	2名	
	達成状況説明	村立小中学校全校に、各1名ずつ学習支援員の配置を行うことができた。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（年度）
	沖縄県学力到達度調査において、小学校3年生算数及び中学校1年生数学の正答率、誤答率、無回答率の項目を県平均を上回る	目 標	（ ）	（ 達成 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績		一部達成			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実 績					
	進捗状況説明	小学校3年算数において、正答率、誤答率、無回答率はすべての項目で県平均を上回る結果であり、目標達成となった。 中学校1年数学においては、正答率のみ県平均を上回り、誤答率及び無回答率は県平均を下回る結果となり、目標一部達成となった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業は、平成26年度から事業を継続実施している。その結果、小学校における正答率は、平成27年度に沖縄県平均に達し、以後3年間沖縄県平均を上回っている。中学校における正答率は、平成26年度から平成28年度まで徐々に沖縄県平均に近づいており、平成29年度には、沖縄県平均を上回ることができた。今後も継続して県平均を上回ることができるよう取り組みが必要である。	本事業は、継続した配置により学力の向上が期待できることから、継続した配置を推進する。
今後の取り組み方針		
今後も継続的に支援員を配置し、確かな学力の定着を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
16,097	14,756	11,804	2,952	1,341

読谷村
14,756千円

報酬
14,617千円

学習支援員
7名
14,617円

旅費
139千円

学習支援員
7名
139千円

読谷村負担分1,341千円
(対象外経費)

〔 嘱託職員報酬 〕

〔 嘱託職員費用弁償 〕

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④	特別支援教育支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ				
担当部課名	教育委員会 教育総務課・学校指導課	事業実施(予定)年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進			
事業内容	心身の障害並びに発達障害(ADHD・LD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を持つ幼児児童生徒に対し個々に応じた適切な支援を行うため、各校に特別支援教育支援員を配置し支援体制の拡充と質の向上を図る。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	45,375	45,922	43,773	42,805		
		(b) 予算現額	45,375	45,922	43,773	41,254		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 1,551		
		(d) 繰越額	—	—	—	—		
		A. 計(b+d)	45,375	45,922	43,773	41,254		
	B. 執行済額		39,377	44,914	42,186	41,254		
	うち交付金充当額		31,501	33,309	33,749	33,003		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		86.8%	97.8%	96.4%	100.0%		
予算の状況の説明		当初予定と異なる人員配置となったうえ、退職に伴う未配置が生じたため、予算減額。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	特別支援教育支援員 幼稚園(5園):5名	目 標	(5名)	(5名)	(5名)	(5名)		
		実 績	5名	5名	5名	5名		
	特別支援教育支援員 小学校(5校):10名	目 標	(10名)	(10名)	(10名)	(10名)		
		実 績	10名	10名	10名	10名		
	特別支援教育支援員 中学校(2校):4名	目 標	(4名)	(4名)	(4名)	(4名)		
		実 績	5名	4名	4名	4名		
	特別支援教育専門指導員 2名	目 標	(1名)	(1名)	(2名)	(2名)		
		実 績	1名	1名	2名	2名		
達成状況説明	各施設において支援員を配置することができ、目標を達成することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	要支援幼児・児童生徒への支援体制の構築による適切な体制での支援実施	目 標	()	(実施)	()	()	()	
		実 績		実施				
	進捗状況説明	活動目標を達成したことで、要支援幼児・児童生徒への支援体制が構築でき、個に応じた支援を行うことができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	支援員を配置することで、対象幼児、児童生徒の個々のケースに対応することができた。 しかし、幼稚園現場においては発達特性に応じたさらなる支援体制の構築が必要である。	幼稚園については、対象園児の支援の必要性に応じた特別支援教育支援員の配置を検討する。
今後の取り組み方針		
幼稚園において、全園の副園長と協議のうえ、配置予定の特別教育支援員を別のより必要性の高い園へ配置するなど、配置について見直す。また、小中学校においては今後も継続的に支援員を配置し、対象児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																									
<table><tr><td>読谷村</td><td>報酬</td><td>特別支援教育支援員</td><td rowspan="2">〔 嘱託職員報酬 〕</td><td rowspan="6">〔 嘱託職員費用弁償 〕</td></tr><tr><td>41,254千円</td><td>40,808千円</td><td>21名 40,808千円</td></tr><tr><td></td><td>旅費</td><td>特別支援教育支援員</td><td colspan="2" rowspan="2">〔 嘱託職員費用弁償 〕</td></tr><tr><td></td><td>446千円</td><td>21名 446千円</td></tr><tr><td></td><td colspan="2" rowspan="2">〔 読谷村負担分3,221千円 (対象外経費) 〕</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr></table>					読谷村	報酬	特別支援教育支援員	〔 嘱託職員報酬 〕	〔 嘱託職員費用弁償 〕	41,254千円	40,808千円	21名 40,808千円		旅費	特別支援教育支援員	〔 嘱託職員費用弁償 〕			446千円	21名 446千円		〔 読谷村負担分3,221千円 (対象外経費) 〕			
読谷村	報酬	特別支援教育支援員	〔 嘱託職員報酬 〕	〔 嘱託職員費用弁償 〕																					
41,254千円	40,808千円	21名 40,808千円																							
	旅費	特別支援教育支援員	〔 嘱託職員費用弁償 〕																						
	446千円	21名 446千円																							
	〔 読谷村負担分3,221千円 (対象外経費) 〕																								
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>44,475</td><td>41,254</td><td>33,003</td><td>8,251</td><td>3,221</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	44,475	41,254	33,003	8,251	3,221											
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費																					
44,475	41,254	33,003	8,251	3,221																					
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明																					
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村嘱託職員の任用等に関する規則、要綱により予算規模を決定しており、適正な規模であった。 ○費目・使途は、支出等に関する書類により確認。適正であった。																					
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。																							
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。																							
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。																							

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	米軍施設返還に伴う雨水排水増加の既設水路現況調査及び排水計画策定事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(13)－イ				
担当部課名	建設整備部 施設整備課	事業実施（予定）年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備			
事業内容	Ⅲ－8							
事業内容	返還軍用地の跡地利用に伴い発生している道路冠水や床上・床下浸水を解消するため、排水計画を策定する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,202					
		(b) 予算現額	13,770					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 432					
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	13,770					
	B. 執行済額		13,770					
	うち交付金充当額		11,016					
	次年度繰越額		0					
	執行率（％）(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		事業計画のとおり実施した。当初予算額の減額は執行残である。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
			29年度	30年度	31年度	32年度		
	読谷村雨水排水計画の作成	目 標	（ 雨水排水計画の作成 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	雨水排水計画の作成完了					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成状況説明	読谷村全域の流域調査を実施し、地形を踏まえ排水区を23地区に区分した。各排水区の都市集積度、浸水リスクから優先順位付けを行い、排水区ごとに事業費を算出し、整備目標を設定した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（ 年度）	
	読谷村雨水排水計画の策定	目 標	（ ）	（ 排水計画 ）の策定	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		策定				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
	進捗状況説明	排水区域を決定し、既存の水路の能力評価を行った上で優先順位付けを行い、整備スケジュールの検討をし、読谷村全域の雨水排水計画を策定した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今年度策定した読谷村全域の雨水排水計画を踏まえ、本村の上位計画と整合を図り、優先順位の高い排水区から整備事業に取り組む。 事業目標を、当面、中期、後期と定めて事業を実施していくが、事業費や人員の確保について検討し取り組む必要がある。	雨水排水計画に基づき事業を実施するにあたり、他部署・関係機関との連携を図り取り組む。
今後の取り組み方針		
今年度策定した雨水排水計画に基づき、読谷村全域の雨水排水施設の整備を進め、災害に強い地域作りと防災体制の強化を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
13,770	13,770	11,016	2,754	0

読谷村
13,770千円

委託料
13,770千円

株式会社 双葉測量設計
13,770千円

読谷村雨水排水計画策定業務

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は、指名競争入札を行い、最低入札額提示事業者に決定し、発注しているので妥当と考える。 ○入札による執行残が生じたが、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3－②	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」区画整理事業調査事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(13)－ア				
				早期の事業着手に向けた取組				
担当部課名	建設整備部 都市計画課	事業実施 （予定）年度	平成29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－8			
事業内容	トリイ通信施設跡地の跡地利用を図るため、トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の区画整理事業に向けた施行地区の設定、区画整理基本設計、事業計画案の作成を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	12,496	34,560				
		(b) 予算現額	11,772	32,346				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 724	▲ 2,214				
		(d) 繰越額	－	－				
		A. 計 (b+d)	11,772	32,346				
	B. 執行済額		11,772	32,346				
	うち交付金充当額		9,417	25,876				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%				
	予算の状況の説明		不用額2,214千円については委託の入札残の減によるものである。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の 区画整理事業に向けた区画整理事業調査 を実施	目 標	（ 施行地区の設定 区画整理基本設計 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	施行地区の設定 区画整理基本設計					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
	達成 状況 説明	トリイ通信施設跡地の跡地利用を図るため、トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の区画整理事業に向けた施行地区の設定、区画整理基本設計、事業計画案の作成を実施し、当該地区の土地区画整理事業の事業化に向けた準備を行った。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （ 年度）
	区画整理事業調査の完了	目 標	（ ）	（ 完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		完了				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
	進捗 状況 説明	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の区画整理事業に向けた施行地区の設定、区画整理基本設計、事業計画案の作成を実施し、事業化に向けた資料を作成した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	都市計画の計画提案に向け、地権者の同意が課題となる。 また、土地区画整理に係る事業計画の推進に向け、調整協議が必要となる。	地主会と読谷村で折衝を行い、事業推進に取り組む。
今後の取り組み方針		
地主会に対し、土地区画整理事業地内の地権者の同意取り付けや都市計画提案に向けた支援を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>32,346</td><td>32,346</td><td>25,876</td><td>6,470</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 32,346千円 → 委託料 32,346千円 → 株式会社オオバ 沖縄支店 32,346千円 （平成29年度 大木南地区跡地利用）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	32,346	32,346	25,876	6,470	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
32,346	32,346	25,876	6,470	0										

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は指名競争入札により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模、費目・使途についても適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－①	ユンタンザフィールドミュージアム構築事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ア				
担当部課名	教育委員会　文化振興課	事業実施（予定）年度	平成24～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり			
					Ⅲ－3－（2）			
事業内容	読谷村内の各集落に遺されてきた自然・歴史・文化などの情報を、聞き取り調査や過去の資料から収集し、マップにまとめて活用できるようにする。							
実施方法	■直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,003	6,504	8,118	12,330	15,319	
		(b) 予算現額	5,449	6,504	7,255	11,659	14,690	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 554	0	▲ 863	▲ 671	▲ 629	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	5,449	6,504	7,255	11,659	14,690	
	B. 執行済額		5,449	5,979	7,255	11,659	14,690	
	うち交付金充当額		4,359	4,783	5,804	9,327	11,752	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	91.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		▲629千円については、指名競争入札による入札残である。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	自然・歴史・文化資源等の調査：2地区	目 標	（ 3地区 ）	（ 4地区 ）	（ 4地区 ）	（ 2地区 ）		
		実 績	3地区	4地区	4地区	2地区		
	文化財ガイドマップ板設置：2地区	目 標	（ ー ）	（ ー ）	（ ー ）	（ 2地区 ）		
		実 績	ー	ー	ー	2地区		
	文化財ガイドマップタブロイド版作成：2地区	目 標	（ ー ）	（ ー ）	（ ー ）	（ 2地区 ）		
		実 績	ー	ー	ー	2地区		
	地域散策マップシステムの製作	目 標	（ ー ）	（ ー ）	（ ー ）	（ 製作 ）		
		実 績	ー	ー	ー	製作完了		
達成状況説明	・親志地区、長田地区の2地区において自然・歴史・文化情報等の調査を実施した。 ・2地区のガイドマップ板を設置した。 ・2地区のガイドマップタブロイド版を作成した。 ・地域散策マップシステムを製作した。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（ 年度）
	自然・歴史・文化資源等の調査完了（2地区）	目 標	（ ）	（ 4地区 ）	（ 4地区 ）	（ 2地区 ）	（ ）	
		実 績		4地区	4地区	2地区		
	文化財ガイドマップ板設置完了（2地区）	目 標	（ ）	（ 4地区 ）	（ 4地区 ）	（ 2地区 ）	（ ）	
		実 績		4地区	4地区	2地区		
	文化財ガイドマップタブロイド版配布完了（2地区）	目 標	（ ）	（ 4地区 ）	（ 4地区 ）	（ 2地区 ）	（ ）	
		実 績		4地区	4地区	2地区		
	地域散策マップシステムの製作完了	目 標	（ ）	（ ー ）	（ ー ）	（ 製作 ）	（ ）	
		実 績		ー	ー	製作完了		
	進捗状況説明	現在、2地区ともに米軍基地に接収されていることから、現地調査においては十分な調査ができなかったが、古老や出身者からの情報及びこれまでの調査資料を基にガイドマップ板設置、ガイドマップタブロイド版配布、地域散策マップシステムの製作をすることができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	現地は、現在も米軍基地内であることから、立入ることは容易ではないので、いかにして往時の集落を伝え、学んでいくことができるかが大きな課題である。	現地に立入ることができない当該地区については、マップ作成に際して収集した写真資料等を活用し、公民館などで展示会を開催するなど自治会と連携していく。
今後の取り組み方針		
文化財ガイドマップの未作成自治会が3地区あるため、それらの自治会の文化財ガイドマップを継続して作成していく。既に作成した自治会においては、それぞれの自治会で文化財めぐりや展示会等ができるように連携して取り組んでいく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>14,690</td><td>14,690</td><td>11,752</td><td>2,938</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 14,690千円 → 報償費 5,478千円 →話者及び調査員 （各地区有識者への聞き取り調査謝礼） → 需用費 216千円 →プリントステーション創明館 （ガイドマップ印刷製本業務） → 委託料 8,996千円 →株式会社アートリンク 3,650千円 （文化財案内板制作委託業務） → 株式会社 バリューリソース・デザイン 5,346千円 （地歴型マップ制作委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,690	14,690	11,752	2,938	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,690	14,690	11,752	2,938	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札を行い、最低価格提示事業者へ決定し発注したので妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は委託業務において入札残が生じたが、委託仕様のとおり業務を遂行でき適性規模である。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	読谷村移民・出稼ぎ調査編集事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ア			
担当部課名	教育委員会　文化振興課	事業実施 （予定）年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる 環境づくり		
事業内容	戦前から戦後にかけて、南米やハワイ、国内及び県内離島に移民・出稼ぎで渡航した村民の足跡を、現地調査や体験者からの証言によってまとめ上げ、読谷における移民・出稼ぎの歴史を多言語で小冊子にし、読谷村のHPで公開する。							
実施方法	■直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,325	8,443	13,054	16,452	11,967	
		(b) 予算現額	6,325	8,910	13,653	16,007	11,908	
		(c) 増減額 (b-a)	0	467	599	▲ 445	▲ 59	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	6,325	8,910	13,653	16,007	11,908	
	B. 執行済額		6,096	8,858	13,653	16,007	11,908	
	うち交付金充当額		4,876	7,086	10,922	12,805	9,527	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		96.4%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		予定していた調査員が都合によって稼働できなくなったため、報償費を減額した。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・H28年度調査報告書作成	目 標	（ 作成 ）	（ 作成 ）	（ 作成 ）	（ 作成 ）		
		実 績	作成	作成	作成	作成		
	・小冊子の原稿執筆	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ 執筆完了 ）		
		実 績				完了		
	・翻訳、印刷製本、発刊	目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ 発刊 ）		
		実 績				発刊		
	達成状況説明	・平成28年度調査報告書は、南米のアルゼンチン、北米ハワイ州（オアフ島、マウイ島、ハワイ島、カウアイ島）における移民・出稼ぎ体験者証言を24頁でまとめ上げた。 ・年間を通して執筆した文章を英語、スペイン語、ポルトガル語に翻訳して小冊子1,000部を3月に発刊した。						
	成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度
平成28年度調査報告書の完成		目 標	（ ）	（ 完成 ）	（ 完成 ）	（ 完成 ）	（ ）	
		実 績		完成	完成	完成		
多言語小冊子の発刊（1,000部）		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ 発刊 ）	（ ）	
		実 績				発刊		
小冊子のHP公開		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ 公開 ）	（ ）	
		実 績				公開		
進捗状況説明		・これまでの調査で収集した資料を基に、読谷村における移民・出稼ぎの様子を多言語で小冊子にまとめ、発刊することができた。 ・発刊した多言語小冊子を読谷村のHPで公開することができた。 ・読谷を離れた移住者の子弟は3世や4世の世代になっていることから、今回発刊した小冊子が母村を振り返ると同時に訪問するきっかけとなり、さらにはルーツ探しを含めた交流に繋がるよう、配布を通して周知していく。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・発刊した多言語小冊子を広く普及させるための方策を立てる必要である。 ・読谷村から海外へ移民した方々の子弟によるルーツ探しへの対応等を行う必要がある。	県や市町村の公的機関をはじめ村人の移民地にも配布することで、読谷村に興味関心を持ってもらうと同時に移民・出稼ぎの歴史を知ってもらう。また海外から移住者の子弟が村を訪れる際にはルーツ探しなど丁寧な対応を重ねていく。
今後の取り組み方針		
本事業で収集した資料を活用して、読谷村の博物館施設等において移民・出稼ぎについての展示会を開催する。また、これまでに得られた証言などを収録した刊行物を発刊していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>11,908</td><td>11,908</td><td>9,526</td><td>2,382</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 11,908千円 → 報償費 7,200千円 → 調査員69人 7,200千円 ・インフォーマント調査 ・証言資料の原稿化 ・小冊子の原稿執筆 → 需用費 4,708千円 → 株式会社 平山印刷 4,708千円 多言語小冊子印刷製本業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,908	11,908	9,526	2,382	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,908	11,908	9,526	2,382	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により、企業組織、実績等を勘案した上で選定しており、妥当だったと考える。 ○予算規模は、事業内容に見合って適正規模である。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるとともに、支出等については条例、調査成果及び村史編集要綱に基づき適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4－③	沖縄語（しまくとぅば）保存継承事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－（4）－ア				
担当部課名	教育委員会　文化振興課	事業実施 （予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる 環境づくり			
事業内容	Ⅲ－3－（2）							
事業内容	沖縄独特の口承文化や歌詞を支えてきた沖縄語の保存継承に寄与するため、生まれ育った地域の沖縄語で伝承されてきた民話や琉歌を調査、整理し、沖縄語に親しめる媒体（絵本やDVD等）を製作し、沖縄語になじみの薄い幼児や児童生徒らに沖縄語の教材を提供する。							
実施方法	■直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,576	6,052	6,062	5,900	7,075	
		(b) 予算現額	4,267	6,052	5,095	5,017	6,130	
		(c) 増減額（b-a）	▲ 3,309	0	▲ 967	▲ 883	▲ 945	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計（b+d）	4,267	6,052	5,095	5,017	6,130	
	B. 執行済額		4,267	5,001	5,095	5,017	6,097	
	うち交付金充当額		3,413	4,000	4,076	4,013	4,877	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	82.6%	100.0%	100.0%	99.5%	
予算の状況の説明		▲945千円および不用額については、民話CD制作委託業務、民話紙芝居製作委託業務の入札残である。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	民話調査・整理	目 標	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	民話絵本「読谷山物語（5話）」の発刊	目 標	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）		
		実 績	発刊	発刊	発刊	発刊		
	民話紙芝居DVD「読谷山物語（5話）」の発刊	目 標	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）		
		実績	発刊	発刊	発刊	発刊		
	民話CD（5話）の発刊	目 標	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）	（ 発刊 ）		
		実 績	発刊	発刊	発刊	発刊		
達成 状況 説明	民話調査・整理を行い、沖縄語（しまくとぅば）を保存継承するための教材「民話絵本」、「民話紙芝居DVD」、「民話CD」を発刊した。また今回からCDに沖縄語のわらべ唄も収録した。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （ 年度）
	製作した民話紙芝居DVDの放映会の開催 による沖縄語に親しむ機会の創出	目 標	（ ）	（ 開催 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		開催				
	放映会の延べ鑑賞者数 5,000名	目 標		5,000名				
		実績		5,481名				
	進捗 状況 説明	制作した民話紙芝居DVDの放映会を開催し、目標を上回る人数の方々に観賞してもらうことができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	目標値を達成したことで、沖縄語に対する関心の高さがうかがえる。平成29年度で民話絵本と民話紙芝居DVD制作が終了するため、製作した教材を活用し、今後も継続的な沖縄語の保存継承の取り組みを行っていくための仕組みを考えていく必要がある。	平成30年度新しくオープンする世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム内に、民話紙芝居DVDの放映や民話絵本を閲覧できるスペースを設け、村内の児童生徒だけでなく、より多くの層に沖縄語に触れる機会を提供する。
今後の取り組み方針		
各地区の民話を活用した沖縄語（しまくとぅば）教材を制作し、子どもらが沖縄語の魅力に親しめる教材を増やし、提供していく。また、世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアムにて、製作した教材を継続的に活用していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>6,097</td><td>6,097</td><td>4,877</td><td>1,220</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 6,097千円 委託料 1,285千円 株式会社 サン・エージェンシー 1,285千円 〔民話紙芝居DVD製作委託業務〕 委託料 350千円 株式会社 サン・エージェンシー 350千円 〔民話CD制作委託業務〕 需要費 1,102千円 株式会社 東洋企画印刷 1,102千円 〔民話絵本読谷山物語印刷製本業務〕 報償費 2,160千円 調査員 2,160千円 〔民話の調査（3名）〕 役務費 1,200千円 執筆者 1,200千円 〔民話絵本と民話紙芝居の台本原稿・原画執筆〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,097	6,097	4,877	1,220	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,097	6,097	4,877	1,220	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託業者は指名競争入札等を行い、最低価格提示事業者へ決定し発注したので妥当と考える。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模は委託業務において入札残が生じたが、委託仕様のとおり業務を遂行でき適性規模である。										
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		5-①	中学生海外ホームステイ派遣事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
						国際社会、情報社会に対応した教育の推進			
担当部課名		教育委員会 教育総務課・学校指導課	事業実施 （予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)			
事業内容		村内の中学生12人を夏休みの1ヶ月間を利用し、英語圏に短期間派遣し、ホームステイを実施することにより、国際的な視野を持つ人材の育成を目指す。							
実施方法		□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		予算の状況	(a) 当初予算額	2,400	3,600	3,600	3,600	3,600	
			(b) 予算現額	2,400	3,600	3,600	3,600	3,300	
			(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 300	
			(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
			A. 計 (b+d)	2,400	3,600	3,600	3,600	3,300	
		B. 執行済額		2,400	3,300	3,600	3,600	3,300	
		うち交付金充当額		1,920	2,640	2,880	2,880	2,640	
		次年度繰越額		0	0	0	0	0	
		執行率（％）(B/A)		100.0%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		12名の中学生の保護者に対して30万円を補助する予定で事業を開始したが、11名の応募だったことから、変更申請を行ったうえでの予算減額。							
活動目標（指標）及び達成状況		H29活動目標（指標）		達成状況					
					26年度	27年度	28年度	29年度	
		短期留学費の支援 11名	目 標	(12名)	(12名)	(12名)	(11名)		
			実 績	11名	12名	12名	11名		
			目 標	()	()	()	()		
			実 績						
達成状況説明	村立中学校2校から、11名の中学生の保護者に対して、派遣先はアメリカ合衆国ワシントン州シアトルへの短期留学費1人あたり300,000円を支援した。								
成果目標（指標）及び進捗状況		H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値 （ 年度）
		保護者へのアンケート 帰国後、国際的な視野が広まったと回答した割合 80%以上	目 標	()	(80%以上)	()	()	()	
			実 績		100%				
			目 標	()	()	()	()	()	
			実 績						
		進捗状況説明	帰国後のアンケートの結果、派遣した生徒に関して国際的な視野が広まったと感じた保護者の割合は100%であり、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	派遣対象生徒を村内にある中学校全ての2中学校に在籍する生徒に限っていたが、応募者が年によって変動し、平成29年度は12名の枠に11名しか応募が無く、派遣上限数に満たなかった。	事業運営の見直しを行い、これまでは村立中学に在学する生徒のみと限定していた派遣対象要件を拡充し、より多くの生徒が応募できるよう改善する必要がある。
今後の取り組み方針		
派遣対象枠の拡充による応募生徒の増加を目指すとともに、今後も継続的に派遣を実施し、国際的な視野を持つ人材の育成を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)													
			<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>3,300</td><td>3,300</td><td>2,640</td><td>660</td><td>0</td></tr></table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,300	3,300	2,640	660	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費									
3,300	3,300	2,640	660	0									
読谷村 3,300千円 補助金 3,300千円 派遣対象生徒 保護者 3,300千円 中学生海外ホームステイ派遣事業に かかる経費													
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される生徒は、学校長推薦により決定しており、選定方法は妥当と考える。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○読谷村補助金交付規則に沿って予算規模を設定しており、適正な規模である。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は、読谷村補助金交付規則に沿っており、妥当である。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか等について支出等に関する書類により確認、適正である。										

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①	地産地消推進を図る生産施設設置事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－ア			
担当部課名	ゆたさむら推進部　農業推進課	事業実施 （予定）年度	平成25～平成29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
事業内容	地産地消を推進するための栽培施設の設置に係る費用へ補助を行い、主に村内学校給食やファーマーズマーケット等への供給を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（　）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	19,997	19,996	15,223	12,172	9,321	
		(b) 予算現額	19,997	10,570	14,160	6,664	7,760	
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 9,426	▲ 1,063	▲ 5,508	▲ 1,561	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	19,997	10,570	14,160	6,664	7,760	
	B. 執行済額		18,720	10,560	14,160	6,664	7,760	
	うち交付金充当額		14,976	8,448	11,328	5,331	6,208	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		93.6%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		当初予算要求時点で予定していた農家数(3人)から、事業実施時点で1人が減ったことにより1,561千円減の予算で執行した。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	栽培施設設置支援	目　標	(　　実施　　)	(　　実施　　)	(　　実施　　)	(　　実施　　)		
		実　績	実施	実施	実施	実施		
		目　標	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)		
		実　績						
	達成状況説明	事業実施計画時点での導入農家数(2人)へ、栽培施設の導入を行った。						
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 (　年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (　年度)
	・栽培施設の設置：面積1,487㎡	目　標	(　　　　　)	(　2,480㎡　)	(　864㎡　)	(　1,487㎡　)	(　　　　　)	
		実　績		2,412㎡	864㎡	1,026㎡		
	・導入農家：3農家	目　標	(　　　　　)	(　　　　　)	(　　　　　)	(　3農家　)	(　　　　　)	
		実　績				2農家		
	進捗状況説明	3農家への施設の支援を予定していたが、土地の確保がうまくいかず、2農家への施設の導入になったため、目標値を達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	H29年度については目標値を達成できなかったものの、H25年度からの事業導入に伴い、読谷村産の野菜の出荷量が増えたことで、地産地消に繋がりが「食と農」をととした地産地消の推進を図ることが出来た。 今後は生産面について、施設を導入した農家の生産力の向上が課題である。	生産面について、農家への栽培指導等の取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
生産力向上の取り組みとして、事業実施主体、農家、村で連携して栽培指導（栽培のノウハウや病虫害対策等の教授）に取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
10,476	7,760	6,208	1,552	2,716

読谷村
7,760千円

→

補助金
7,760千
円

→

沖縄県農業協同組
合
7,760千円

生産施設設置
にかかる経費

沖縄県農業協同組合負担分
2,716千円
〔交付対象外経費〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村における沖縄振興特別推進市町村交付金事業補助金交付規則により、支出先を決定しており妥当であったと考える。 ○予算規模は事業内容に見合い、適正であった。 ○補助金の割合については規則に沿っており、適正な規模および受益者負担は妥当であった。 ○費目・使途は、事業完了後実績報告を受け検査し補助金の額を確定したため適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6－②	優良母牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－ア		
担当部課名	ゆたさむら推進部　農業推進課	事業実施（予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
事業内容	経営安定化・質の高い肉用牛の改良を進めるため、県内外のセリ市場から黒毛和牛優良繁殖雌牛を導入し、肉用牛生産農家へ優良種を普及させ、優良子牛の生産を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（　）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,900	9,900	9,900		
		(b) 予算現額	9,826	9,900	9,900		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 74	0	0		
		(d) 繰越額	－	－	－		
		A. 計 (b+d)	9,826	9,900	9,900		
	B. 執行済額		9,826	9,873	9,900		
	うち交付金充当額		7,860	7,898	7,920		
	次年度繰越額		－	－	－		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	99.7%	100.0%		
	予算の状況の説明		1頭当たりの補助上限額300千円を33頭導入したため、執行率100％で執行した。				
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	優良母牛の導入支援	目　標	（　33頭　）	（　33頭　）	（　33頭　）	（　　　）	
		実　績	33頭	33頭	33頭		
		目　標	（　　　）	（　　　）	（　　　）	（　　　）	
		実　績					
	達成状況説明	当初の予定どおり33頭の優良雌牛を導入し、肉用牛生産農家へ優良種を普及することができた。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（29年度）
	今年度導入率33%（全導入目標数99頭）	目　標	（　　　）	（　33頭　）	（　33頭　）	（　33頭　）	（　99頭　）
		実　績		33頭	33頭	33頭	
		目　標	（　　　）	（　　　）	（　　　）	（　　　）	（　　　）
		実　績					
	進捗状況説明	当初の予定どおり33頭の優良雌牛を導入し、今年度導入率33%達成したことで今年度の目標を達成することができた。目標の99頭を導入し、優良種の普及に努めた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今年度も予定どおり33頭の優良雌牛を導入することができた。 導入した雌牛が肉用牛生産農家の経営安定化と質の高い肉用牛の普及に繋がるよう仕組みづくりが課題となる。	行政及び事業実施主体（沖縄県農業協同組合）で肉用牛生産農家への飼養管理及び生産技術指導を行う必要がある。使用管理及び生産技術を見直すことでより質の高い肉用牛の生産に繋がれば、結果的に経営安定及び質の高い肉用牛の普及に繋がると考えられる。
今後の取り組み方針		
牛舎の環境やひづめを削るなどについての飼養管理や家畜改良協会や畜産研究センター等の関連団体、人工授精師などの専門家に伺った情報を提供することによる生産技術指導、農業簿記講座による経営指導等を行い、肉用牛生産農家の経営の効率化と生産基盤の整備並びに強化を推進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
28,733	9,900	7,920	1,980	18,833

読谷村
(9,900千円)

補助金
(9,900千円)

沖縄県農業協同組合
(9,900千円)

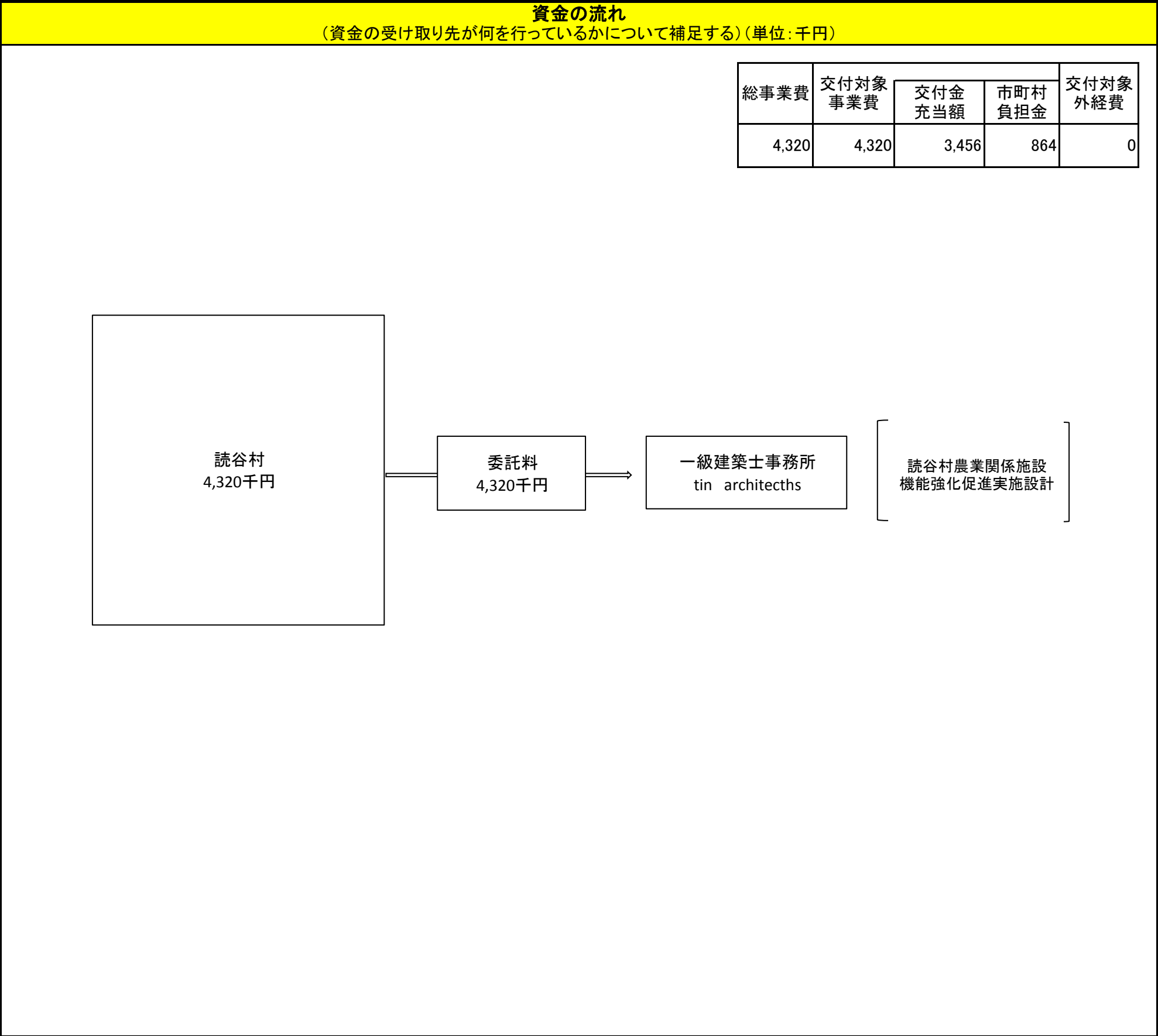
優良雌牛導入にかかる経費

沖縄県農業協同組合負担分
18,833千円
(交付対象外経費)

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村における沖縄振興特別推進市町村交付金事業補助金交付規則により、支出先を決定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○1頭当たりの上限額を計画頭数導入し、100%執行している為適正な規模だった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金の割合については規則に従っており、予算規模及び受益者負担は妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業完了後実績報告を受け、検査し補助金額を確定したため、適正であった。

市町村名	読谷村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6－③	農業関係施設機能強化促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ			
担当部課名	ゆたさむら推進部農業推進課	事業実施（予定）年度	平成28～平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化			
事業内容	地域内農林水産物の利用促進と新たな雇用の創設を図るために、農業関係施設（読谷村農村女性の家）の機能強化を実施する。H29年度は読谷村農業関係施設機能強化工事に向けた実施設計を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,494	6,023				
		(b) 予算現額	5,494	4,320				
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,703				
		(d) 繰越額	－					
		A. 計 (b+d)	5,494	4,320				
	B. 執行済額		5,400	4,320				
	うち交付金充当額		4,320	3,456				
	次年度繰越額							
	執行率（％）(B/A)		98.3%	100.0%				
	予算の状況の説明		委託業務発注前に金額を精査し、指名競争入札を執行した。減額1,703千円については、入札執行残によるものである。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				29年度	30年度	31年度	32年度	
	読谷村農業関係施設機能強化促進実施設計の実施	目 標	（ 実施 ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績	実施					
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成状況説明	読谷村農業関係施設機能強化促進実施設計が完了した。今後は実施設計に基づき、機能強化工事を行う。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	29年度	30年度	31年度	目標値（ 年度）
	読谷村農業関係施設機能強化促進実施設計の完了	目 標	（ ）	（ 実施設計の完了 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績		実施設計の完了				
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績						
	進捗状況説明	読谷村農業関係施設機能強化促進実施設計が完了したことで目標を達成した。今後は実施設計に基づき、機能強化工事を行う。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	実施設計については問題なく完了した。 整備後、機能強化した施設を効果的に運営していくためには、福祉部門や農業部門等の関係部署との連携を図らなければならない。	施設の機能強化後の運営方法等を農業や福祉の関係部門・関係機関等と綿密に検討し、効率的な運営方法を条例に盛り込んでいく。また、事業展開を支える協議会の設置等についても検討を行う。
今後の取り組み方針		
実施設計に基づき工事及び備品整備を進める。また、平成31年度からの円滑な事業実施に向け、引き続き関係機関・部署との調整、事業運営に関わる条例の作成、段階的な事業展開を支える協議会の設置等についても検討を行う。		



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 項目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札を行い、最低価格事業者へ発注したので妥当と考える。 ○執行率は100%となっており、適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	読谷村工芸品県外プロモーション戦略事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ		
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課		事業実施 (予定)年度		平成26～33年度	伝統工芸品等を活用した感性型 ものづくり産業の振興	
				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)		
事業内容	1978年に策定した「ヤチムンの邑」基本構想に基づき、本村の伝統工芸の持続的発展を図るため、県外におけるマーケティング及びプロモーション活動を実施し、販路拡大並びに人材育成に取り組む。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	14,259	13,234	12,993	12,352	
		(b) 予算現額	12,463	12,946	12,031	8,800	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,796	▲ 288	▲ 962	▲ 3,552	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	12,463	12,946	12,031	8,800	
	B. 執行済額		11,447	11,322	11,358	8,279	
	うち交付金充当額		9,157	9,057	9,086	6,623	
	次年度繰越額		—	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		91.8%	87.5%	94.4%	94.1%	
予算の状況の説明		事業の効率化に努め、適切な予算執行だと考えられる。 予算減額の▲3,552千円については、旅費(航空運賃)の額の確定、映像制作業務の執行残による減額である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況			
				26年度	27年度	28年度	29年度
	テストマーケティングの実施	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	物産展への出店(周知を目的とした)、展示会の出店支援	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	認知度アップ、周知用媒体ツールの整備	目 標	()	()	()	(実施)	
		実 績				実施	
	達成状況説明	テストマーケティングについては、阪急うめだ本店「おいしい かわいい 沖縄展」、東京ハーヴェスト、ニッポン全国物産展、東京都内の雑貨店へ出店し、直接消費者への周知及び販売、並びに本村で開催される陶器市等への観光誘客のための周知を行った。 展示会への出展支援については、東京インターナショナル・ギフト・ショーへ出展し、バイヤー等への周知等を行った。 認知度アップ、周知用媒体ツールとして、ヤチムン紹介映像の制作を行った。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度
次年度以降のプロモーション戦略等効果検証		目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)
		実 績		実施	実施	実施	実施
販路把握、顧客の獲得		目 標	()	()	(実施)	(実施)	(実施)
		実 績			実施	実施	実施
ブース来場者(2,000人)		目 標	()	()	(2,000人)	(2,000人)	(2,000人)
		実 績			2,000人以上	2,000人以上	2,000人以上
進捗状況説明		各項目において目標を達成することができた。 次年度以降のプロモーション戦略等効果検証については、展示会等において「読谷村のヤチムン」の認知度を検証した。 前年度に引き続き、阪急うめだ本店「おいしい かわいい 沖縄展」でアンケートを実施した。前年度比較で、「沖縄県のヤチムンを知っている」が79%から83%、「読谷村に多くのヤチムン工房がある」が39%から78%と共に向上しており、本村ヤチムンの認知度向上に繋がっている。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	販路拡大を図るため、展示会や物産展等へ出展し、陶器業界のバイヤーに対する「読谷村のヤチムン」の知名度向上に加え、テストマーケティングによる一般消費者ニーズの掘り起こしが必要である。また、現地消費の拡大による本村のヤチムン窯元の全体的な底上げも必要である。	これまで継続的に行ってきた展示会、物産展等への出展によるバイヤーへの周知、テストマーケティングによる一般消費者等への周知に加え、ヤチムン紹介映像や陶器市等のチラシなど、新たなセールスツールを活用したPR手法によるプロモーションを行う。
今後の取り組み方針		
本村のヤチムン等をアピールするため、ヤチムン紹介映像等のセールスツールを活用した周知を行うとともに、首都圏での物産展及び展示会、テストマーケティングを実施し、販路拡大と知名度向上に加え、本村で開催される陶器市等の周知を行い、本村の工芸品であるヤチムン等を活用した観光誘客による現地消費の拡大を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>8,279</td><td>8,279</td><td>6,623</td><td>1,656</td><td>0</td></tr></table> 読谷村 8,279千円 旅費 3,077千円 需用費 433千円 役務費 600千円 委託料 2,144千円 使用料及び借料 2,025千円 職員21人 スタッフ13人 (延べ人数) 事業に係る消耗品 ポスター、チラシ作成等 パンフレット送付 展示会広告料等 光文堂コミュニケーションズ株式会社 1,649千円 株式会社FMよみたん 495千円 株式会社ビジネスガイド社等 2,025千円 説明会・展示会・物産展等 セールスツール作成委託等 ヤチムン紹介映像制作委託 展示会等会場使用料					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,279	8,279	6,623	1,656	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,279	8,279	6,623	1,656	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○旅費については、村内旅行業社2社からの見積徴収により、最低価格者へ決定し発注、委託業者については、実績などを勘案した上で選定しているため、支出先の選定は妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○本村の工芸品プロモーションを行う事業に見合った予算規模である。										
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか等について支出等に関する書類により確認、適正である。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												